

平成22年5月25日現在

研究種目：基盤研究（B）（海外学術）

研究期間：2007～2010

課題番号：19404019

研究課題名（和文）エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡および周辺地域の建築的研究

研究課題名（英文）Architectural Study on the Ruins at the Abusir-south and its Surrounding Area in Egypt

研究代表者 柏木 裕之（KASHIWAGI HIROYUKI）

サイバー大学・国際文化学部・准教授

研究者番号：60277762

研究代表者の専門分野：工学

科研費の分科・細目：建築史・意匠

キーワード：古代エジプト、アブ・シール南、石造建築、古代遺跡、復元研究、建造工程、発掘調査

1. 研究計画の概要

エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡は、早稲田大学エジプト調査隊によって1991年に発見された遺跡である。当該遺跡からは、古王国時代の建造物や中王国時代の岩窟遺構群、新王国時代の石造、煉瓦造建造物が発見されており、古代エジプト王朝時代の聖地の一つとして重要な位置を占め続けてきたと考えられている。

研究代表者の柏木は建築班主任として当該遺跡の調査研究および保存整備に携わってきた。成果の一部は自身の学位論文としてまとめられたが、遺構の残存状況は総じて悪く、平面の把握すら困難な箇所も少なくなかった。そのため発掘区域を広げ、散乱した石材や関連部材を可能な限り収集して、より確度の高い復元像を提示することが求められた。

本研究はこうして得られた散乱建材の分析を基に、出土遺構の復元考察を行うとともに、アブ・シール南丘陵遺跡の特質を包括的に抽出することを目指したものである。

2. 研究の進捗状況

丘陵頂部から発見された遺構のうち、カエムワセト王子の石造建造物は特に重要な建造物である。しかしながら後世に大規模な破壊を受けたため、原位置を留める部材は少なく、大部分は周囲から散乱した状態で発見された。このうち、丘陵頂部に広がる散乱石材は2000年度までに概ね収集が完了し、基本的な考察が完了した。それを受け2001年度からは丘陵斜面に崩落した石材の取り上げ作業に着手し、2007年度に一応の終結をみた。

この間に取り上げられた石材は1000点を超え、出土状況や規模、形態などの記録を行った。

2008年度および2009年度は上記崩落石材の詳細な観察および資料化を推し進め、古代エジプト建築で開花式パピルス柱に分類される柱片が含まれていることを確認した。また梁や天井材と考えられる部材も確認され、開花式のパピルス柱を備えた空間が存在したことを明らかにした。

2008年度には石造建造物の北東区域から貴族墓の礼拝堂と地下遺構が発見された。残存状態は良好でなかったが、詳細な観察を行った結果、カエムワセト王子と同時代の建築技術が確認され、彼本人あるいは密接な関係を持つ人物の建物であると考えられた。

また地下に穿たれた岩窟墓についても調査を行い、内部に安置された石灰岩製の棺は石切場から新規に切り出された石材ではなく、マスタバ墓の石製角柱を再利用した可能性が高いことを提示した。さらに岩盤に残された痕跡の観察から掘削手順を復元し、重量のある石棺の搬入方法や時期も含めた一連の工程を描くことができた。

岩窟墓の発見を受け、ルクソール西岸、コーカ地区およびダハシュール北地域において岩窟墓群の比較調査を実施した。岩盤の掘削手順や仕上げ方法などを観察、検討した。

3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

本研究は、アブ・シール南丘陵の頂部に位

置する建造物の復元研究および当遺構の歴史的、地理的特質の抽出を目的として開始された。3年間の調査研究により、復元研究に有用な建材をほぼ入手することができ、資料化も完了することができた。現在、復元成果の発表に向けて論文を執筆中である。

発掘区を拡張した調査では、新たに貴族墓が発見され、当丘陵の歴史的な位置づけを検討する上で重要な資料となった。礼拝堂の記録、平面形式や建立時期などの基本的な検討も行うことができ、今後の比較研究を進める上で基礎的な準備は整ったと考えられる。また地下の岩窟墓についても石棺を含め、測量作業を完了し、基礎データの入手が終了した。記録作業と並行して基本的な分析も進め、一連の掘削工程を仮説として提示することができた。

以上のように、アブ・シール南丘陵遺跡では、既出土の建造物の考察がほぼ完了するとともに、新たな遺構の発見によって丘陵遺跡の包括的な理解に向けた基礎資料の充実を図ることができた。

4. 今後の研究の推進方策

アブ・シール南丘陵遺跡の頂部から新たに貴族墓礼拝堂と地下遺構が発見されたことを受け、今後は礼拝堂および岩窟墓の調査研究を進める必要がある。貴族墓の礼拝堂は近年報告例が増加しつつも、未だ包括的な研究がなされていない分野である。アブ・シール南丘陵遺跡から発見された礼拝堂は、高位の人物のものとして想定され、編年を検討する上で重要な役割を果たすことが期待される。

また、当丘陵遺跡から初めて本格的な墓建築が発見されたことから、当丘陵に墓地という性格が付与された点は重要である。墓地の選地や方位などについて、更に検討を重ねる必要があると考える。

5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計11件)

吉村作治、河合望、柏木裕之、西坂朗子、高橋寿光「第18次調査概要、第19次調査概要アブ・シール南丘陵遺跡第18次・第19次調査概要、『エジプト学研究別冊』第14号、pp.14-59, 2010.3, 査読無.

柏木裕之「エジプト、ダハシュール北遺跡から発見された中王国時代のシャフト墓の掘削工程について」『西アジア考古学』第10号、pp.19-31, 2009.3, 査読有.

Tadateru NISHIURA, Hiroki KASHIWAGI 「An Attempt for the Conservation and Utilization of Highly Decayed Excavated Remains Made of Mudbricks in Egypt」『ラーフィダーン』第30巻、pp.15-22, 2009.3, 査読有.

吉村作治、近藤二郎、河合望、柏木裕之、他2「発掘調査 アブ・シール南丘陵遺跡第17次調査報告」『エジプト学研究別冊』第13号、pp.15-29, 2009.3, 査読無.

柏木裕之「エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡から出土した石積み遺構の保存整備」『日本建築学会技術報告集』第13巻第25号、pp.295-300, 2007.6, 査読有.

[学会発表](計5件)

柏木裕之「古代エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡から発見された新王国時代の高官墓について」日本建築学会大会学術講演研究発表会、2009.8.26, 東北学院大学

柏木裕之「古代エジプト、シャフト墓の掘削工程から探る標準化された墓の先行掘削について」建築史学会2009年度大会研究発表会、2009.4.25, 名古屋工業大学

柏木裕之「エジプト、ダハシュール北遺跡から発見されたシャフトの掘削過程について」日本西アジア考古学会第13回大会、2008.6.15, 慶應義塾大学

柏木裕之「古代エジプト、トトメス4世王墓埋葬室の壁面に残されたモルタル塊について」日本オリエント学会第49回大会研究発表、2007.9.30, 関西大学

柏木裕之「エジプト、アブ・シール南丘陵遺跡の保存整備」文化財保存修復学会第29回大会、2007.6.16, 静岡県民会館

[図書](計1件)

柏木裕之「4-1 老いてなお美しき組積造」、『建築大百科事典』(長澤泰他編), 朝倉書店、pp.278-279, 2008.11.

[産業財産権]

○出願状況(計0件)

○取得状況(計0件)

[その他]

なし